

フランシスコ・ザビエルと長崎県平戸島について、吉田小五郎『新装版・ザヴィエル』吉川弘文館（2006年・平成十八年）の82、83ページから引用してみます。

市来（鹿児島県日置郡市来町）を辞し、京泊（鹿児島県川内市）を経て海路平戸へわたった。平戸は肥前の国、平戸島の一港で、古くから日中交通上の要津にあっていた。当時同港には、二カ月前から、ポルトガル船が碇泊し、その乗組の人々がザヴィエルの為人を説明した。貧しい身なりをしてはいるが、実は有徳の師父であることを島民に示し、旗を掲げ幕をはり、祝砲を放ち、それこそ至らざるなき歓迎ぶりを示した。これを見た領主松浦隆信を初めとして、島民はいささか驚いた。利に敏い隆信は、早速ザヴィエルを優遇してどうなるのかとの胸算用をした。ザヴィエルの一行は同地にいあわせたポルトガル人を従え、盛儀をととのえて領主に謁見して甚だ歓待され、即日布教の許可を得た。巧みに日本語をあやつるフェルナンデスの功もあって、二十日にもみたないうちに、洗礼を受けたものは、鹿児島で一年間に得た信者の数よりも多かったという。

フランシスコ・ザビエルが長崎県平戸島で布教する以前、すでにポルトガル船が寄港して、多数の船員が上陸していたようです。この島でキリスト教の信者が増えた背景には、松浦隆信とフェルナンデスの協力があったようです。戦国時代、松浦氏は龍造寺氏と対立しました。



平戸大橋は美しく重要な交通インフラです。



日本100名城のひとつ長崎県平戸城、城主は水軍松浦党です。

平戸城の小さな天守閣から眺める海は爽快でした。海を見渡せる天守閣はとても珍しいと思います。ロボットも一緒に学生旅行へ行って下さい！平戸城について、小和田哲男 監修『日本の城ハンドブック新版』三省堂（2005年・平成十七年）の256、257ページから引用してみます。

平戸城以前の松浦氏の居城は岩ノ上という所にあった日之岳城であったが、完成間近に焼失し、それ以後、居城のないまま、藩主は御館という私邸を住居としていた。この日之岳城焼失については、嫡子久信の急死を悲しんだ藩主鎮信による放火説や貿易による繁栄を幕府の目からくらすための放火・廃棄説などがある。平戸城の築城は宝永元年（一七〇四）に着工され、同四年にほぼ完成したので、棟は御館から住居を移した。



F r a n c i s c o d e X a v i e r の像です。

吉田小五郎『新装版・ザヴィエル』吉川弘文館（2006年・平成十八年）の10、11ページから引用してみます。

アメリカを発見した例のコロンブスが歿した年と同じ年の一五〇六年四月七日（永正三年三月四日）にわがフランシスコ＝デ＝ザヴィエルがこの世の人となった。スペインもフランス寄りピレネー山脈の西麓に近い小さな王国ナヴァールのザヴィエル城、周回約三ー四里、城壁と濠をめぐらし、三つの塔をもった屋形、それに附属の礼拝堂があって、ここに平素何人かの聖職者がつめていた。堂々たるお城の中でザヴィエルは呱呱の声をあげたのである。

W i k i p e d i a では「ハビエル城」を参照して下さい。



平戸ザビエル記念教会は信仰のPOWERによって建築されました。

美しく伝統ある宗教建築は、素晴らしい遺産だと日々実感します。

それでは長崎県平戸島よりクラシカルな建築短歌三十一文字詠ませていただきます。

～ キリストの 教へ伝へて 平戸島

カテドラル建つ 冬のザビエル ～



長崎県の名菓「カステラ」も頂きました。

【大阪工業技術専門学校に通学されている皆様へ】

今回は大阪南港フェリーターミナルからの船旅でした。大阪南港フェリーターミナルはフェリーターミナル駅と直結しているため、円滑に乗船する事ができます。船旅は移動に時間がかかるため、ビジネス利用には難しいですが、料金が安く厳しい荷物の制限もありません。

水都大阪の港湾施設や、旅客船の構造・設備等を見学していると、テクノロジーに秘められた野望も発見することができます。